

## 第11回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：平成27年8月4日（火）14：00～15：10

場 所：広陵町役場3階大会議室

出席者：山村会長、東委員、青木委員、藤村委員、森本委員（代理：稲留様）、村上委員（代理：白柳様）、大庭委員、大西委員（代理：内藤様）、森本委員（代理：河野様）、福寫委員、西本委員、石川委員（代理：米田様）、吉崎委員、島田委員（代理：鋤田様）、古田委員、奥谷委員

欠席者：吾妻委員

### 1 開会進行（事務局）

### 2 会長あいさつ

みなさんこんにちは。第11回広陵町地域公共交通活性化協議会に出席を賜りましてありがとうございます。一部計画等について見直す必要がでてきました。ルート案等についてもご相談いただきます。規約の改正により近畿日本鉄道の方にもご参加いただくことになりましたので、よろしくお願ひします。公共交通の維持については、悩ましい問題がたくさんあります。費用、公平性の確保、どのようにすればよいのか、担当を悩ませている。ある程度のところで決断をする必要があります。

#### （1）広陵町地域公共交通活性化協議会規約の改正（案）について

##### 【事務局説明】

資料1の説明。

##### 【質疑応答】

###### ○会長

ご意見、ご質問はありませんか。ご意見がないようなので、承認ということでしょうか。

（承認）

それでは、改正案については、承認とさせていただきます。

ここで、近畿日本鉄道株式会社営業企画部長の福寫様にお入りいただきます。それでは、ご挨拶をお願いします。

###### ○委員

これから、鉄道事業者の立場でご相談賜りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

#### （2）広陵元気号運行実施計画(案)について

##### 【事務局説明】

資料2の説明。

## 【質疑応答】

### ○会長

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はありませんでしょうか。運行ルートが変わっておりますし、運行経費についても概算ですが示させていただいておりますので、ご意見をいただきたい。

### ○委員

ルート図ですが、大和広陵高校を通過して、国保中央病院を通過して、同じ道を帰ってこない理由は。

### ○事務局

川を渡って三宅町のところで一部道路の狭いところがある。車の規制がかかっているわけではないが、行きだけにしてはどうかと思っている。所要時間のこともあって、そのように考えている。

### ○委員

管轄の警察に関して、この会議で香芝署の方にお伺いを立てていただければよいが、そうでなければ、ご了解が必要になると思う。時刻表は、どのようにして決定されたのか。

### ○事務局

時刻表は、現行の広陵元気号の時間を参考にしながら、実際にも走りながら示したものとなっている。通勤、通学にも利用してもらいたいということも考えたし、運転手さんの休憩時間をとらせていただいている。休憩時間については、奈良交通さんにも伺っている。

### ○委員

運賃の収受が増えるので、乗降に時間がかかるので、今までのようにはいけないかもしれない。今のところ案ということですね。中央幹線の1便では、広陵高校の生徒さんが、大和高田駅からも乗ってきて、乗り切れない恐れがあるのではないかと。また、イズミヤさんの従業員も乗ってきて、果たして病院へ行く人が乗り切れるのか。

### ○事務局

イズミヤさんについては、通勤で大和高田駅から歩いている人もいます。どれだけの利用があるのか、あまり見えないところ。ポンチョ号にすれば、乗れるのではと思っている。試行運行しながら、車両のほうも検討できればと思っている。広陵高校のなかで、何を利用して学校に来ているかの調査があるが、その中身を見ただけでは、よくわからない面があり、高校でそれだけ乗ってくるか、高校のほうにも聞いてみたい。

### ○委員

今後検討されるということですね。

### ○会長

三宅町の方が病院に行っても戻れないという問題もある。

### ○事務局

道が狭いので、地元の自治会にも説明が必要なので、地元の了解があれば、往復も考えたい。三宅町の役場としては、良い話だという回答をもらっている。集落の中を通るので、地元への説明も必要でないか、ということでした。

○会長

時刻表についても、どれくらい時間がかかるのか、検討をお願いしたい。

○委員

運行ダイヤについて、コメントさせていただく。近鉄とのダイヤの接続もみてほしい。28年度になれば、今のダイヤが変更になるかもしれないが、平日だと、中央幹線の7便ですと、16時4分に高田駅を出発して広陵町役場方面に出発することになっているが、近鉄をみると、16時5分に名張行きが到着する。その前だと20分の待ちとなる。8便では、17時35分の青山町行きの急行が到着するが、17時36分発のバスに間に合わない。通勤、通学を視野に入れるなら、鉄道会社さんとの接続についても検討をお願いしたい。

西部支線と中央幹線、北東部支線との接続は、ないように思うが、その辺はどうお考えか。

○事務局

近鉄とのダイヤ接続は、現状では確認してなかったので検討させていただくが、全て接続するのは難しいと思う。大阪方面行きと八木行きのどちらを優先するかという問題もある。

西部支線の接続は、当初、役場を起点に接続するダイヤを作っていたが、役場を乗継にすると高田から乗って、箸尾まで行こうとすると、役場での待ち時間が長くなるといった問題がある。

少しずらせば接続できるようであれば、接続するように調整していきたい。

○委員

無理に接続するのはどうかとは思いますが、奈良交通のバスと重複しているところもあるので、役割分担もあることから、その点を考慮して検討していただければと思います。

○事務局

支線は、町内の移動ですので、町外へは奈良交通のバスに乗ればよい。北東部支線と西部支線との接続が重要だと思うが、役場、さわやかホール、中央公民館もあるので、検討していきたい。

○委員

資料3の運行形態で、道路運送法4条と78条ですが、基本的には、運賃をとってお客を運ぶのであれば、緑ナンバーの事業者によるものが大原則。法律では、自家用車による有償は一旦禁止されている。例外的に市町村有償運送が認められているので、ご理解いただきたい。市町村有償運送の審査では、一般乗合事業者によっては、地域住民の生活に必要な旅客輸送を確保することが困難である、ということを確認させていただく。この協議会で、なぜ市町村有償運送が必要なのか、一般乗合事業では困難なのか、ということを確認させていただきたい。費用が一番

ということは理解しているが、基本的には、4条が大原則。管理責任については、やはり市町村有償運送は、市町村が運営するので、交通事業者に賠償責任をお任せすることにはならない。この辺は、市町村有償運送のほうが負担が重くなると思っておいたほうが良い。来年度の秋の運行なので、いろいろと検討する余地があるのでは。基本にたちかえって、竹取公園東に行く路線を活用することも考え直してもよいのでは。まだ時間があるので、これをたたき台に、これにとらわれることなく、幅広くご議論していただきたい。

○会長

金額の違いは、責任の取り方の違いというか、行政責任のことと理解すればよいのか。

○委員

行政責任もあるが、バリアフリーとかで、費用がかかると思われます。

○委員

この問題の発端は、路線バスが撤退したことからスタートしている。地方自治体がやらないといけない状況になっている。この点を踏まえて手当てしてほしい。路線バスを復活するのは、耐えられない。国の施策に乗ってやらせていただいているが、できるだけの温かい配慮をお願いしたい。78条にも冷たくしないようお願いしたい。一番迷惑するのは、住民であり、交通弱者なので、そういう意味でよろしくお願いしたい。

○委員

費用は重要な要素の一部ですが、なぜ78条を選ぶのかということをきちっと整理していただきたい、とうことです。

○会長

今日は、たたき台ということで、ご理解をお願いしたい。

○委員

資料12ページに公共交通確保維持改善事業の補助金を調達し、あてにすることがあったが、4月から運行であれば、車両が足りない。4月から補助を適用するのか。本格運行で初めて車両を買うことであって、半年、先走りでこの計画をやったら、車両も運転手もいるが、どうするのか。

○事務局

車両については、平成28年10月から補助をいただくことになるので、4月からは、リースにするとかを考えている。無料運行なので、料金の収受はいらない。4月からはリースで、10月から車両購入と考えている。

○委員

また厳しいことを言うことになるが、現段階の補助要綱、補助条件であればということで相談させていただいているが、徐々に補助要件が厳しくなっている。来年の4月に補助要件が示されるので、場合によっては、補助が難しくなることもあるかもしれないので、その点も念頭においておく必要がある。

○会長

どこも財政がきびしい。できるだけ頑張ってよろしくお願ひしたい。  
この運行案をご承認いただくということによろしいでしょうか。  
では、承認されました。ありがとうございます。

(3) 広陵町地域公共交通網計画計画(案)について

【事務局説明】

資料3の説明。

【質疑応答】

○会長

ただいまの説明について、ご意見、ご質問はありませんか。車社会から公共交通にシフトしようとすることを主とした計画ということだと思います。

○委員

この計画は、理想的なもので、現実はどうか、ということもあるが、よろしいのではないか。

○会長

それでは、よろしいでしょうか。それでは、承認とさせていただきます。

その他として、それ以外の項目について意見交換させていただきます。

○委員

田原本線ですが、沿線の町が、近鉄さんとの間で乗客数を増やすためにがんばってきたが、結果としては、それほどでもない。本町では、唯一の鉄道駅がなくならないように、沿線自治体とも連携するが、箸尾駅を維持する受け皿になってほしい。心配しているのは、廃線が早まったらどうなるのか、と思っている。

○委員

田原本線については、3年くらい前から省人化ということとさせていただいた。赤字路線であるが、現段階では、どうこうとは考えていない。省人化で維持し、ダイヤを守っていこうと考えている。

交通軸としての鉄道とバスとの接続が大事なことと思っている。例えば、使いやすいようにするには、乗る方に分かりやすい、覚えやすいダイヤ、毎時0分にでるとか、時刻表をみなくても良いようなダイヤができることが大事。今回、三宅町との連携もあり、広陵町さんだけではなく、周りの市町と連携されて交通ネットワークをつくれれば、より良くなっていくと思う。今後も、ご協力をしていきたい。

○会長

昔は、県庁に行くのに箸尾駅から鉄道を利用していた。試行的にもやってもらったらよい。職員も意識をかえないといけない。

○委員

モビリティ・マネジメントは、地域の方が、公共交通に乗っているということ。地域の熱意があれば、廃止しにくい。和歌山電鉄も地域の熱意で存続させた。地域

が支えるということが大事。熱意がないと維持できない。県庁へいくときとか、お酒を飲むときとかには、公共交通を使うとか。ちょっとしたことでよいので、モビリティ・マネジメントに力をいれたい。

○会長

それでは、これで会議を閉じさせていただきます。